

自発的教養科目の説明

自発的教養科目の目的

自発的教養科目は、学生による自発的な体験学習の機会を保障することにより、学生の皆さんが、今後さまざまな機会をとらえて自律的かつ実践的な学びを継続していけるよう後押しすることを目的として設けられています。

自発的教養科目の内容

自発的教養科目には、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（自発的研究）」、「自発的教養（地域課題実習）」、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」の4科目があります。いずれも、学内の教員の指導の下で、次のあらかじめ定められた活動を行い、その活動実績が要件を満たせば、単位が認定されます。

- ・「自発的教養（ボランティア活動）」を履修した場合、「ボランティア活動」（表1）の単位が認定されます。
- ・「自発的教養（自発的研究）」を履修した場合、「自発的研究」（表2）もしくは、定められた活動以外の「自発的研究」（専攻分野外の研究など）の単位が認定されます。
- ・「自発的教養（地域課題実習）」を履修した場合、「地域課題実習」（表3）の単位が認定されます。
- ・「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」を履修した場合、「実践的キャリア形成活動」（表4）の単位が認定されます。

認定される単位数は、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（自発的研究）」では、30時間程度の活動で2単位、15時間程度の活動で1単位、「自発的教養（地域課題実習）」では、30時間以上の活動で2単位です。また、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」では、60時間以上の活動で2単位です。

ただし、この時間数は一応の目安であり、個々の活動に応じて単位認定に必要な活動時間は異なることがあります。また、定められた活動以外の自発的活動を行う場合は、学期・年度を越えて加算することができます。（例えば、ある年度に15時間の活動を行い、その前の年度に15時間の活動をした場合、合計30時間の活動として申請することができます。）

なお、自発的教養科目の取得単位の上限は、各科目2単位の合計8単位です。

自発的教養科目の単位取得に必要な条件

自発的教養科目の単位を取得するためには、いくつかの条件が必要な場合があります。例えば、

「ボランティア活動」が「自発的教養（ボランティア活動）」として単位認定されるためには、教養教育科目「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスラーニング」の単位を取得しておく必要があります。

なお、「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスラーニング」の履修は、ボランティア活動の途中または終了後でもかまいません。

また、学外で行う活動で交通費などの経費は、原則として自己負担となります。その他、各活

動に必要な条件は下の表 1 ～ 4 に書いてあります。

自発的教養科目履修の手順

- ①興味を持った活動があったら、下の表の連絡先にある責任教員の先生に連絡をとってください。
- ②活動への参加が承認されたら、責任教員の先生の指示に従い、活動を始めてください。
- ③活動を終わったら、「自発的教養活動証明書」、および活動内容と活動から何を学んだかをレポートにまとめた「活動報告書」を責任教員の先生に提出してください。
- ④責任教員の先生は、「活動報告書」を点検し、活動内容、活動時間等から「活動報告書」が単位認定に足るものだと判断した場合、「自発的教養活動証明書」に署名・捺印します。
- ⑤責任教員から「自発的教養活動証明書」、「活動報告書」を受け取り、「自発的教養活動単位申請書」に必要事項を記載し、教務課の共通科目担当者に提出してください。
- ⑥提出期限は、前期・後期ともにCNSでお知らせします。
- ⑦提出された資料に基づき、本学の自発的教養科目部門で総合的に判断し、単位認定が行われます。学生の皆さんは、履修申告をする必要はありません。
- ⑧詳細につきましては、以下の各学部の自発的教養科目部門委員にお尋ねください。

教養教育センター	仲本康一郎 (knakamoto@yamanashi.ac.jp)
教育学部	田中健史朗 (kenshiroht@yamanashi.ac.jp)
教育学部	松下 浩之 (hiroyukim@yamanashi.ac.jp)
医学部	宮澤 恵二 (kmiyazawa@yamanashi.ac.jp)
医学部	宮本 和子 (mkazuko@yamanashi.ac.jp)
工学部	小林 潔 (kkoba@yamanashi.ac.jp)
工学部	佐々木邦明 (sasaki@yamanashi.ac.jp)
生命環境学部	乙黒 美彩 (motoguro @yamanashi.ac.jp)
生命環境学部	松本 潔 (kmatsumoto@yamanashi.ac.jp)

表1 ボランティア活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆スポーツ教室等におけるボランティア活動 ☆加藤朋之 （教育学部）	加藤 朋之 tomo-kato@yamanashi.ac.jp 公開講座「エコールドゥスポーツ」での指導補助	活動時間：実習 30 時間以上、2 単位	1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修 2. 活動中の宿泊費等実費は個人負担 3. 対人賠償を含む学生保険の加入 4. 大学で実施している健康診断で健康であること
☆学部新入留学生に対するボランティア活動 ☆伊藤孝恵 （国際交流センター）	伊藤 孝恵 takei@yamanashi.ac.jp 学部新入留学生に対する生活上及び勉学上の支援や留学生との交流活動を通じて、国際人としてのボランティア精神や異文化理解、異文化間コミュニケーションスキルの育成を図ることを目指す。	活動時間：15 時間以上、1 単位 30 時間以上、2 単位	1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修 2. オリエンテーション、交流会への出席 3. 留学生との交流活動 4. 活動中にかかる実費は個人負担（飲食や娯楽など） 5. 学生保険への加入

表2 自発的研究

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆フィールド調査実習 ☆竹内 智 （生命環境学部）	竹内 智 take@yamanashi.ac.jp 科学についての興味を喚起し、勉学へのモチベーション維持を目的とし、他大学の公開実習等への参加など、専門の教育・研究に触れる機会を提供します。	実習・事後学習： 30 時間以上、1 単位 60 時間以上、2 単位	1. 活動中の交通費・宿泊費等は自己負担 2. 対人賠償を含む学生保険への加入 3. 事後学習（報告会等）は必修 4. 平成 26 年度活動から認定
☆資源循環型ものづくり実習 ☆竹内 智 （生命環境学部）	竹内 智 take@yamanashi.ac.jp 新エネルギーとして注目されているバイオディーゼル燃料（BDF）の精製、使用済み食用油の回収精製体験を通して、廃棄物のリサイクルや地球規模の環境問題を学習する。	実習、研究：30 時間以上、2 単位	別途案内する説明会でより詳しい説明を行う。

☆ロボコン ☆小谷信司・寺田英嗣 (工学部)	小谷 信司 (情報メカトロニクス工学科) kotani@yamanashi.ac.jp ロボコン参加に関わる技術研修、ロボットの開発、製作、大会参加	実習・講義：60 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. ノートパソコンなどは自己負担 3. 主な活動場所：工学部機械、情報メカトロニクス工学科研究室
☆統合能力型 高度技術者 養成プロジェクト「学大 将」関連の実 習 ☆垣尾省司 (工学部)	垣尾省司 (電気電子工学科) kakio@yamanashi.ac.jp 工学部が設定、運営する学大將プロジェクトのうち、マイハウスプランに属するキャリアハウス、ベンチャーハウスに登録された学生を対象としています。それぞれのハウスでの研究や起業活動を通じて、学生は技術者としての意欲と能力をいっそう伸ばします。活動内容はウェブサイト (http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/index.html) で紹介している。 具体的な単位認定の基準・手続きは各担当教員に確認してください	実習・研究：30 時間以上、2 単位	1. 参加者は活動中の交通費等実費の一部を個人負担する場合有り 2. 学生保険の加入

表 3 地域課題実習

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆ワインツーリズムの実践 ☆大山 勲 (生命環境学部)	大山 勲 ooyama@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域におけるワインセミナー、ワインツーリズム関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・計画・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位	1. 3～4 年生を対象とする 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入

<p>☆アグリツーリズムの実践</p> <p>☆菊地 淑人・田中 敦 (生命環境学部)</p>	<p>菊地 淑人 ykikuchi@yamamashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域におけるアグリツーリズム関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・まちづくり・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生（2 年次に行った活動を次年度加算することと可能）を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆環境分析ネットワーク</p> <p>☆風間 ふたば (生命環境学部)</p>	<p>風間 ふたば kfutaba@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境分析ネットワーク関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆ツーリズムによる産業活性化・地域活性化</p> <p>☆大山 勲・西久保 浩二 (生命環境学部)</p>	<p>大山 勲 ooyama@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における産業ツーリズム関連事業や観光まちづくり・景観まちづくり事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・まちづくり・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生（2 年次に行った活動を次年度加算することと可能）を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入

<p>☆環境保全型農業技術の開発</p> <p>☆矢野 美紀 (生命環境学部)</p>	<p>矢野 美紀 nakatam@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境保全型農業技術の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆森林の継承と環境保全計画立案</p> <p>☆馬籠 純 (生命環境学部)</p>	<p>馬籠 純 magome@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、森林管理の先進地域や森林問題発生地域を対象に事例研究を行う。対象地域の現地視察や関連事業への参加により、地域毎の問題点の理解、課題の設定、解決策の検討、計画立案という一連の流れを体験的に習得する。また、グループによる協働作業、議論、情報発信を通じて地域およびグローバルに活躍できる実践的能力を養うことを目指す。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆ICT の産業活用（センサネットワーク、スマートアグリ、高度植物工場、ハイテク農業機械開発等）</p> <p>☆美濃 英俊・鈴木 智博 (工学部)</p>	<p>美濃 英俊 mino@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における ICT の産業への活用の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入

<p>☆観光・防災・景観等の地域情報の発見・発信による地域貢献力の養成</p> <p>☆秦 康範、荒木 功平（工学部）・大山 勲（生命環境学部）</p>	<p>秦 康範 yhada@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における観光・防災・景観等に関する地域の特徴や資源を発見し、それを様々な人に分かりやすく伝える方法を学び、発見から発信に至る一連の企画・実践の体験によって、地域創生に貢献できる具体的な技術を体得する。本実習では特に発信方法における実践的技術の習得を目指す。例えば、観光では観光資源の発見→ガイドブックの作成→ガイドツアーの企画・実践をおこなう。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に付ける。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限。グループで作業します。（3 名程度のグループでの参加も歓迎します） 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
<p>☆エリア放送を活用したコンテンツ作成の実践</p> <p>☆郷 健太郎（工学部）・井坂 健一郎（教育学部）</p>	<p>郷 健太郎 go@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における様々な活動取材してコンテンツを作成するというケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・提案などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
<p>☆山梨の農業とその発展</p> <p>☆村松 昇・三木 健夫（生命環境学部）</p>	<p>村松 昇 nmuramatsu@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における農業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入

☆地域プロデュース・まちづくり ☆石井信行 (工学部)	石井信行 (土木環境工学科) nobur32@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域 (市民・行政) とコラボレーションしながらプロジェクトを立案・実行し、地域プロデュースやまちづくりについて学ぶ中で、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習、実習、事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
-----------------------------------	---	-------------------------------	--

表 4 実践的キャリア形成活動

テーマ・代表者	連絡先 (責任教員) 説明	単位認定の条件	備考
☆「FAAVO やまなし」による事業創発支援 ☆坂本 康 (生命環境学部)	坂本 康 ysakamoto@yamanashi.ac.jp 澤 伸恭 (地域未来創造センター) nsawa@yamanashi.ac.jp クラウドファンディングサイト「FAAVO やまなし」を活用し事業化を目指す起案者に対して、事業のブラッシュアップやサイト作成、情報発信など、目標達成に向けた各種支援を行う。 それを通じて、事業化に向けたプロセスを理解するとともに、目標達成に向けた課題解決能力や行動力を身につける。	事前学習 「FAAVO やまなし Mirai サロン ※1」への参加 「FAAVO やまなし」起案者の支援 成果発表 60 時間以上、2 単位	1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 3. 学生保険への加入
☆各種アイデア・事業化コンテストへの参加 ☆坂本 康 (生命環境学部)	坂本 康 ysakamoto@yamanashi.ac.jp 杉山 歩 (地域未来創造センター) sugiyamaa@yamanashi.ac.jp 県内外で行われる各種アイデア・事業化コンテストやコンペ等に参加する。 問題発見やその解決に向けたアイデア出し、事業の具体化などの一連のプロセスを学ぶとともに、その実施に必要な分析力や課題解決力を身につける。また、協働力やリーダーシップなど、チームでプロジェクトを実施するための汎用的能力の強化を図る。	事前学習 「未来計画研究社 Mirai サロン ※2」への参加 コンテストへの参加 成果発表 60 時間以上、2 単位	1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 3. 学生保険への加入

<p>☆創造的解決プロジェクト</p> <p>☆坂本 康 (生命環境学部)</p>	<p>坂本 康 ysakamoto@yamanashi.ac.jp</p> <p>佐藤 文昭 (地域未来創造センター) fsatoh@yamanashi.ac.jp</p> <p>澤 伸恭 (地域未来創造センター) nsawa@yamanashi.ac.jp</p> <p>杉山 歩 (地域未来創造センター) sugiyamaa@yamanashi.ac.jp</p> <p>社会における様々なニーズに創造的に応えるための各種事業を企画、実施する。それを通じて、事業化のプロセスを学ぶとともに、事業実施にかかる実践的なノウハウを身につける。また、協働力やリーダーシップなど、チームでプロジェクトを実施するための汎用的能力の強化を図る。</p>	<p>事前学習 「未来計画研究社 Mirai サロン※2」への参加 イベントの実施 成果発表 60 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 (大学コンソによる補助事業や、FAAVO やまなしの活用も検討) 3. 学生保険への加入
<p>☆学生による、学生のためのライフデザインプロジェクト</p> <p>☆坂本 康 (生命環境学部)</p>	<p>坂本 康 ysakamoto@yamanashi.ac.jp</p> <p>佐藤 文昭 (地域未来創造センター) fsatoh@yamanashi.ac.jp</p> <p>杉山 歩 (地域未来創造センター) sugiyamaa@yamanashi.ac.jp</p> <p>それぞれの学生が自分に合った暮らし方や働き方を見つけるために、学生主体によるライフデザイン関連の取組を企画、実施する。それを通じて、新たな暮らし方や働き方に関する知識を学ぶとともに、取組の実施にかかる実践的なノウハウを身につける。また、協働力やリーダーシップなど、チームでプロジェクトを実施するための汎用的能力の強化を図る。</p>	<p>事前学習 「未来計画研究社 Mirai サロン※2」への参加 イベントの実施 成果発表 60 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 (大学コンソによる補助事業や、FAAVO やまなしの活用も検討) 3. 学生保険への加入

※1:「FAAVO やまなし Mirai サロン」は月 1 回開催し、その中で自己のプロジェクトのブラッシュアップを 1 回以上受けるとともに、他のプロジェクトのブラッシュアップにも 2 回以上参加する。

※2:「未来計画研究社 Mirai サロン」は月 2 回程度の開催を想定し、その中で自己のプロジェクトのブラッシュアップを 2 回以上受けるとともに、他のプロジェクトのブラッシュアップにも 2 回以上参加する。